

## 7月定例活動「森のレスキュー」

近藤 真史

暑さとヤブ蚊との戦い。それは夏場に森で活動する時のいわば宿命とも言える過酷な試練ですよね～。

…そんなわけで、今年度の7・8月の定例活動は、最初からその試練を避けてしまおう！それなら室内での講習会をやるよ、ということで、7月は「森のレスキュー」を開催することになりました。

これまで何度か、救急の講習は行ってきましたが、こうした技術はほとんど使う機会がなく（ない方がいいに決まっていますが…）記憶が薄れていることや、心肺蘇生法などあまり森での活動に直結しにくい内容もあったりしていたので、今回はケガや捻挫といった私達の活動に遭遇しがちな内容で、1日みっちり講習を受けることにしました。

今回講習をお願いしたのは「日本赤十字社愛知県支部」。まずは、小池さ

んが同支部に出向き、どのような手続きを取るのか確認していただきました。その後は、近藤が引き継ぎ、希望受講内容を「午前：傷と止血、包帯、午後：骨折、脱臼、捻挫」として”指導者派遣申請書”を提出。後日、同支部担当者から連絡を頂き、直接派遣指導員と電話にて講習内容について細部の打ち合わせ、といった行程を踏みました。また、前日には同支部まで出向き、用具の貸し出しを受けました。

準備の都合上、ある程度参加人数を把握しておく必要があったため、事前に参加希望者を募り、東山公園南部公園愛護会など他で活動されている方も参加していただき、ほぼ当初予定していた15名ほどが講習を受けることになりました。

当日は、相生コミセン2Fの会議室で、日高さんという熟練の指導員が、分かりやすく、また楽しく講習会を進めて

下さいました。

色々なことを習ったなかで、特に「三角巾」は止血するにしても、骨折などで患部を固定するにしても、様々な使用方法があり、万能とも言える威力を発揮する救急道具だなあ、といった印象を受けました。

森での活動の際には参加者がそれぞれ1枚ずつ三角巾を携帯していれば、きっと緊急時には役立つと思います。

当日参加した皆さんが、習得した技術を発揮する機会に巡り会うことなく、でも忘れることのないようにできればいいですね。（そんなこと無理か?!）

（追伸）

貸し出しを受けた用具は、次の月曜日に返却する必要があります。仕事の都合もあって、できればもう少し融通してもらえるとありがたかったなあ…。

## 8月定例活動「虫の竹工作」

中島 己治男

8月23日（土）猛暑の中多数出席のもと10：00～15：00まで天白生涯学習センター美術室にて虫の竹工作を実施しました。

工作の前に愛知リコー様より奨励金がいただけることになり愛知リコー様5名がわざわざ来場いただき奨励金の授与式、意見交換、記念撮影等が行われました。

虫の竹工作は、トンボ、セミ、カブトムシの3種類で1日で完成するか心配していましたが皆様の手際がよく無事時間内に完成することができました。

出来栄は、セミ、トンボ、カブトムシ、ハエ、ゴキブリ等各自のアドリブにて非常にユニークなものもあり楽しい工作が出来ました。

ぜひどんぐり祭りでは、今回の工作を即売できるようにたくさん準備願います。

今回工作のために竹ノコギリ10丁、カッター10丁、剪定バサミ5丁、ナタ5丁、丸ノミ5丁、キリ5本、金物差5本を購入しました。小屋に入れておきますので皆様で有効利用してください。

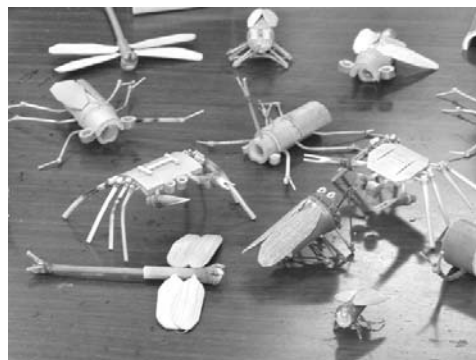
最後に今回の工作で虫の試作、材料集めに協力していただきました伊藤さん、ありがとうございました。



自分たちで作った竹の虫を前にニッコリ(o^o)v



竹工作に熱中する参加者たち



トンボ、セミ、カブトムシのほか、作る前は想像していなかったいろいろな虫たちも…